

問1 13世紀におけるモンゴル帝国と日本の関係について、当時の社会情勢を含めて説明した文として正しいものはどれですか。

(2023年 富山公立入試 類似)

- フビライ・ハンが国号を元と定め、服属を拒否した日本に対して大規模な軍隊を送り込んだ。
- 日本への侵攻を主導したのは中国の明王朝であり、鎌倉幕府は対等な貿易を条件に和睦した。
- 朝鮮半島の高麗と結んだ日本は、モンゴル帝国の本土を攻撃するために大陸へ軍を派遣した。
- 元軍の侵攻を防いだ功績として、鎌倉幕府は恩賞を求める武士たちに十分な土地を分け与えた。

問2 鎌倉時代の主従関係における「奉公」の具体的な内容として、正しいものはどれですか。 (2022年 福岡県公立入試 類似)

- 京都や鎌倉を警備したり、軍勢として合戦に参加したりすること
- 収穫した米の半分を税として幕府に納めること
- 地方の行政官である国司に任命され、徴税業務を行うこと
- 仏教を信仰し、幕府の繁栄を祈るために寺院を建立すること

問3 鎌倉時代、宋（中国）で学んだ僧侶の道元が日本に伝え、ひたすら座禅を組むことで悟りを開こうとする教えを何といいますか。 (2024年 長野県公立入試 類似)

- 臨済宗
- 曹洞宗
- 浄土宗
- 日蓮宗

問4 運慶や快慶によって東大寺南大門の金剛力士像が制作された13世紀前半、アジア大陸では新たな勢力が急速に台頭していました。当時の日本文化の背景と国際情勢の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2024年 神奈川県公立入試 類似)

- 大陸ではモンゴル帝国が勢力を拡大しており、日本では武士の好みに合った写実的で力強い文化が栄えた。
- 大陸では唐が滅亡して混乱が続いており、日本では貴族を中心に優雅な国風文化が全盛期を迎えた。
- 大陸では宗教改革による対立が激化しており、日本では阿弥陀如来への信仰が武士の間に浸透した。
- 大陸では秦の始皇帝が統一を果たしており、日本ではそれに対抗するために写実的な彫刻が作られた。

問5 1297年に鎌倉幕府が発令した「永仁の徳政令」について、この法令が出された背景とその内容を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2017年 高知公立入試 類似)

- 元寇による軍役負担で困窮した御家人を救うため、質入れ・売却した土地の無償返還などを命じた。
- 北条氏による執権政治を強化するため、御家人たちが独自の裁判を行うことを禁止した。
- キリスト教の布教を制限し、幕府が貿易を独占することで財政を立て直そうとした。
- 全国の公家や寺社に対して、幕府への忠誠を誓わせる代わりに土地の所有権を認めた。

問6 源頼朝が征夷大将軍となり、鎌倉幕府を成立させるまでの過程で行ったこととして、歴史的な事実に基づいた正しい記述はどれですか。 (2017年 香川公立入試 類似)

- 平氏を滅ぼした後、義経をかくまった奥州藤原氏を討ち、全国的な支配権を確立した。
- 平安時代中期に関東で反乱を起こした平将門を討伐し、その功績によって朝廷から官位を授かった。
- 坂上田村麻呂が築いた胆沢城を拠点にして、東北地方の蝦夷の勢力を武力で制圧した。
- 律令国家の制度を強化するため、国ごとに国司を派遣して土地と人民を直接管理した。

問7 1232年、3代執権の北条泰時が「御成敗式目」を制定した背景として、最も正しい説明はどれですか。 (2022年 福島県公立入試 類似)

- 承久の乱のあと、新しく任命された地頭と従来の領主との間で土地をめぐる争いが増えたため
- 源頼朝の死後、源氏の血筋が途絶えたことで、将軍に代わる新しい統治者を決める必要があったため
- 天皇を中心とした律令制度を復活させ、公家と武士が共同で政治を行う仕組みを整えるため
- 幕府の拠点を鎌倉から京都へ移し、朝廷の政治文化を積極的に取り入れるため

問8 1232年、鎌倉幕府の3代執権である北条泰時が、武士社会の慣習を整理し、公平な裁判を行うための基準として定めた最初の武士独自の法を何といいますか。 (2023年 鹿児島県公立入試 類似)

- 御成敗式目（貞永式目）
- 十七条の憲法
- 武家諸法度
- 公事方御定書

問9 鎌倉幕府が「徳政令」を出さざるを得なくなった背景として、当時の社会状況を説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2019年 千葉県公立入試 類似)

- 防衛戦であった元寇では、奪った土地を恩賞として分配することができず、御家人の不満が高まっていたため。
- 幕府が貨幣経済を禁止しようとして、すべての支払いをコメで行うよう強制したため。
- 朝廷が幕府に対抗して新しい法律を作ったため、御家人の忠誠心が揺らいでいたため。
- 大規模な干ばつによって農業生産が激減し、幕府が農民の税を免除したため。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 フビライ・ハンが国号を元と定め、服属を拒否した日本に対して大規模な軍隊を送り込んだ。	モンゴル帝国のフビライ・ハンは朝鮮半島の高麗を服属させた後、日本にも服属を求めましたが、執権の北条時宗がこれを拒否したため侵攻を決定しました。なお、この戦いは防衛には成功したものの、恩賞として与える土地が不足していたため、幕府に対する武士たちの不満が高まる原因となりました。
問2	答え 1 京都や鎌倉を警備したり、軍勢として合戦に参加したりすること	御家人の「奉公」は、軍事的な役割が中心でした。平時には京都の警備を行う「京都大番役」や鎌倉の警護に従事し、戦時には「いざ鎌倉」の言葉に象徴されるように、自費で軍装を整えて合戦に参加することが最大の義務とされました。
問3	答え 2 曹洞宗	道元は宋での修行を経て日本に帰国し、越前（現在の福井県）に永平寺を建立して曹洞宗を広めました。同じく座禅を重視する臨済宗が幕府や上層武士に支持されたのに対し、曹洞宗は地方の武士や民衆の間に広まったという特徴があります。
問4	答え 1 大陸ではモンゴル帝国が勢力を拡大しており、日本では武士の好みに合った写実的で力強い文化が栄えた。	13世紀前半は、大陸においてチンギス・ハンがモンゴル帝国を建国し、急速に領土を広げていた時期に当たります。これと同じ時期の日本は鎌倉時代であり、幕府を中心とする武士の勢力が強まったことで、芸術面でも従来の貴族的な繊細さとは異なる、運慶・快慶に代表されるような力強く写実的な文化が発展しました。唐の滅亡は10世紀初頭、宗教改革は16世紀の出来事であるため、時代背景が異なります。
問5	答え 1 元寇による軍役負担で困窮した御家人を救うため、質入れ・売却した土地の無償返還などを命じた。	鎌倉幕府の基盤は、将軍からの「御恩（土地の保証）」と御家人の「奉公（軍役）」という主従関係にありました。しかし、元寇の防衛戦では十分な恩賞が与えられず、生活に窮した御家人が土地を売る事態が相次いだため、幕府は主従関係を維持するためにこの法令を強行しました。
問6	答え 1 平氏を滅ぼした後、義経をかくまった奥州藤原氏を討ち、全国的な支配権を確立した。	源頼朝は、弟の義経を追放した際に彼をかくまった奥州藤原氏を1189年に滅ぼしました。これにより、平氏追討に続く軍事行動を完了させ、名実ともに武士の頂点としての地位を固めました。平将門の乱は頼朝以前の10世紀の出来事であり、坂上田村麻呂の活動は平安時代初期のことです。また、頼朝が国ごとに配置したのは国司ではなく、武士による統治を担う守護でした。
問7	答え 1 承久の乱のあと、新しく任命された地頭と従来の領主との間で土地をめぐる争いが増えたため	承久の乱の結果、幕府は西日本にも多くの地頭を任命しましたが、これにより各地で土地の支配権をめぐるトラブルが急増しました。北条泰時は、御家人たちに公平な裁判の基準を示すことで、これらの混乱を鎮め、北条氏による執権政治の基盤を安定させようと考えました。
問8	答え 1 御成敗式目（貞永式目）	承久の乱の後、幕府の支配力が西日本まで及ぶようになると、各地で地頭と荘園領主との間に土地をめぐる紛争が急増しました。北条泰時は、裁判を公平に行い、御家人の権利を保障するために、これまでの慣習法を成文化しました。これは後の武家法の模範となりました。
問9	答え 1 防衛戦であった元寇では、奪った土地を恩賞として分配することができず、御家人の不満が高まっていたため。	鎌倉幕府の基盤は、将軍が御家人に領地を保証・支給する「御恩」と、御家人が軍役を果たす「奉公」という主従関係にありました。元寇の際、御家人たちは暴風雨の助けもあって元軍を撃退しましたが、自衛のための戦争であったため、幕府は御家人に与えるための新たな領土を手に入れることができませんでした。このことが御家人の困窮と幕府への不信感を招き、徳政令という強制的な借金帳消し策をとる要因となりました。

問1 日本の歴史区分における「中世」の政治的な特徴と、その期間の組み合わせとして正しいものを選びなさい。（2014年 愛媛公立入試 類似）

1. 天皇や貴族による律令国家体制が確立された、奈良時代から平安時代まで
2. 武士が政治の主導権を握り、幕府が統治を行った、鎌倉時代から室町時代まで
3. 織田信長や豊臣秀吉、徳川氏による全国統一が行われた、安土桃山時代から江戸時代まで
4. 明治維新によって天皇中心の政治が再建され、欧米の制度が導入された明治時代以降

問2 13世紀後半、文永の役などの蒙古襲来（元寇）において、御家人は幕府の命令に従い命がけで戦いましたが、この出来事をきっかけに「御恩と奉公」の仕組みが揺らぎ、幕府への不満が高まりました。その背景として最も適切な説明はどれですか。（2020年 岡山公立入試 類似）

1. 外国からの侵略を防ぐ防衛戦であったため、恩賞として御家人に与えるための新たな土地が不足していたから。
2. 蒙古との貿易が途絶えたことで、幕府が御家人に支払う給料としての貨幣が底を突いたから。
3. 将軍が北条氏に代わって独裁を強めたため、御家人の所領をすべて没収してしまっただから。
4. 戦いを通じて御家人の力が強まりすぎたため、将軍が「御恩」を与える制度を廃止したから

問3 13世紀後半、元軍による最初の侵攻である文永の役ののち、鎌倉幕府が再度の襲来に備えて、九州北部の博多湾沿岸に約20kmにわたって築かせた石造りの防壁を何とといいますか。（2023年 高知公立入試 類似）

1. 防塁
2. 水城
3. 山城
4. 環濠

問4 分割相続などの影響で生活が苦しくなった御家人を救済するため、1297年に鎌倉幕府が出した「永仁の徳政令」の内容として正しいものを選びなさい。（2017年 香川公立入試 類似）

1. 御家人が借金の担保として質に入れたり、売却したりした所領を、無償で取り戻させる。
2. これ以降の分割相続を一切禁止し、すべての所領を幕府が管理して御家人に給与を支払う。
3. 蒙古襲来の戦功に応じた十分な恩賞を与えるため、西国の公家から土地を取り上げて配分する。
4. 御家人の借金を帳消しにする代わりに、今後一切の貨幣の使用や商業活動を禁止する。

問5 1221年に発生した承久の乱は、武家政権と朝廷の関係における大きな転換点となりました。この乱の戦後処理として幕府が行った内容と、その目的の説明として正しいものを選びなさい。（2020年 沖縄公立入試 類似）

1. 六波羅探題を京都に設置し、朝廷の動きを監視するとともに西国の武士の統制を強化した。
2. 京都所司代を京都に設置し、天皇や公家の行動を制限するための法度を運用した。
3. 引付衆を鎌倉に設置し、御家人たちの間で急増していた領地争いの裁判を迅速に行わせた。
4. 守護・地頭を全国に配置し、軍事・警察権の行使と年貢の徴収を確実に行わせた。

問6 鎌倉幕府が置かれた鎌倉の地は、軍事的な防衛を強く意識した都市構造を持っていました。当時の鎌倉の地形的特徴と、それに関連した防衛の仕組みについて述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2022年 山口公立入試 類似）

1. 広大な盆地の中心に位置し、四方に張り巡らされた水路によって外敵の侵入を防いだ。
2. 三方を山に囲まれ南は海に面した地形で、山を切り開いた狭い通路のみを外部との連絡路とした。
3. 太宰府のように水城と呼ばれる大規模な堤防を築き、海から上陸する敵の攻撃を遮断した。
4. 平坦な土地に巨大な石垣と堀を幾重にも配置し、陸上交通の要所を完全に封鎖した。

問7 鎌倉時代の文化は、武士の台頭を背景に、力強く写実的な作風が特徴です。この時期を代表する彫刻家の一人で、快慶らとともに東大寺南大門に安置された金剛力士像を制作した人物は誰ですか。（2016年 岡山公立入試 類似）

1. 運慶
2. 世阿弥
3. 観阿弥
4. 雪舟

問8 鎌倉幕府が、御家人の義務として「京都の警備」を重視した背景や目的を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2022年 長野県公立入試 類似）

1. 朝廷のある京都の治安を維持し、幕府の警察権を誇示することで、朝廷に対する支配力を強めるため
2. 室町時代に発達した商業や手工業を保護し、京都を通る物資から通行税（関銭）を徴収するため
3. 御家人を定期的に京都へ交代で赴かせることで、経済的な負担を与えて反乱の芽を摘むため
4. 分割相続によって領地が細分化された御家人に対し、京都での新たな領地を与える機会を作るため

答え合わせ・解説

問1	答え 2 武士が政治の主導権を握り、幕府が統治を行った、鎌倉時代から室町時代まで	鎌倉時代と室町時代を合わせた期間を指します。この時代は、将軍と御家人が土地の支配を媒介に結びつく「御恩と奉公」の関係など、武家社会特有の仕組みが政治の基盤となりました。これは、それ以前の貴族中心の政治から大きな転換点となっています。
問2	答え 1 外国からの侵略を防ぐ防衛戦であったため、恩賞として御家人に与えるための新たな土地が不足していたから。	蒙古襲来は外国の侵攻を退けるための戦争であり、国内での内戦のように勝利して敵の領地を奪うことができませんでした。そのため、多額の軍費を負担して戦った御家人に対し、幕府は十分な恩賞（御恩）を与えることができず、生活が困窮した御家人の間に幕府への強い不信感が広がることとなりました。
問3	答え 1 防塁	文永の役（1274年）で元軍の集団戦法や火器に苦しめられた鎌倉幕府は、再度の襲来を想定して、御家人たちに博多湾沿岸の防衛を強化させました。このときに築かれた石造りの壁は「防塁」または「石築地（いしつじ）」と呼ばれ、1281年の弘安の役において元軍の上陸を阻止する大きな役割を果たしました。選択肢にある「水城」は、7世紀に白村江の戦いで敗戦後、唐・新羅の侵攻に備えて大宰府近郊に築かれた土塁のことであり、時代設定が異なります。
問4	答え 1 御家人が借金の担保として質に入れたり、売却したりした所領を、無償で取り戻させる。	幕府は困窮する御家人を救うため、売却したり質に入れたりした所領を無償で元の持ち主に返させる徳政令を出しました。しかし、これにより金銭の貸し借りができなくなるなど経済的な混乱を招き、かえって御家人の生活はさらに苦しくなり、幕府への不満が高まる原因となりました。
問5	答え 1 六波羅探題を京都に設置し、朝廷の動きを監視するとともに西国の武士の統制を強化した。	承久の乱において、後鳥羽上皇を中心とする朝廷軍を破った鎌倉幕府は、それまで支配力が弱かった西国への影響力を強める必要がありました。そこで、朝廷の政治を監視し、西国の武士を統制・裁判するために「六波羅探題」を京都の六波羅に設置しました。江戸時代に置かれた「京都所司代」や、幕府成立時に設置された「守護・地頭」との時期や役割の違いを区別することが重要です。
問6	答え 2 三方を山に囲まれ南は海に面した地形で、山を切り開いた狭い通路のみを外部との連絡路とした。	鎌倉は、三方の山が城壁の役割を果たし、南の海が堀の役割を果たすという、要塞としての機能を持った都市でした。陸路で外部とつながる場所は、山を切り開いて造られた「切通し」と呼ばれる非常に狭い通路に限定されていました。これにより、敵の軍勢が一斉に攻め込むことを難しくし、少ない兵力でも都市を守りやすくする工夫がなされていました。選択肢にある「広大な盆地」や「水城」は、鎌倉の地形的特徴とは一致しません。
問7	答え 1 運慶	鎌倉時代には、武士のたくましい気風を反映した芸術が発展しました。運慶は快慶らとともに、東大寺南大門に現存する巨大な金剛力士像を制作しました。この像は筋肉の躍動感などを捉えた写実的な表現が特徴で、当時の新興勢力であった武士階級の精神に合致していました。選択肢にある世阿弥と観阿弥は室町時代に能楽を大成させた人物であり、雪舟は室町時代に水墨画を確立した人物です。
問8	答え 1 朝廷のある京都の治安を維持し、幕府の警察権を誇示することで、朝廷に対する支配力を強めるため	鎌倉幕府は、将軍が御家人の領地支配を保障する代わりに、軍役を通じて全国的な警察・軍事権を握りました。特に朝廷のある京都の警備（京都大番役）を幕府の指揮下で行うことは、幕府が政治的権威を高め、全国支配を正当化する上で極めて重要な意味を持っていました。分割相続は鎌倉時代に行われていましたが、それが京都警備の目的ではありません。

問1 東大寺南大門に安置されている、運慶や快慶らによって制作された彫刻作品について、その特徴を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2022年 大分県公立入試 類似）

1. 筋骨隆々とした肉体美や激しい動きを表現した、写実的で力強い金剛力士像
2. 極楽浄土の様子を視覚化するために制作された、優雅で穏やかな表情の阿弥陀如来像
3. 禅宗の教えに基づき、精神的な静寂を表現するために彫られた簡素な木像
4. 貴族の権威を象徴するために金箔をふんだんに使用した、装飾性の高い菩薩像

問2 鎌倉幕府を開いた源頼朝が、奥州藤原氏を攻め滅ぼした歴史的背景として、最も適切な説明を選びなさい。（2019年 滋賀公立入試 類似）

1. 頼朝と対立して平泉へ逃れた弟の源義経を、奥州藤原氏が保護したため。
2. 奥州藤原氏が京都の朝廷と密かに結び、鎌倉幕府を打倒する計画を立てたため。
3. 北上川流域で産出される金の独占権をめぐり、幕府と朝廷が対立したため。
4. 奥州藤原氏がモンゴル帝国の侵攻に備えるための軍役に拒否したため。

問3 鎌倉時代後半、二度にわたる元軍の侵攻（元寇）を退けた後、幕府の支配体制は揺らぎ始めました。戦いには勝利したものの、幕府に仕える「御家人」の生活が困窮し、不満が高まった理由として最も適切な説明を選びなさい。（2018年 秋田県公立入試 類似）

1. 防衛のための戦いであったため、幕府は恩賞として御家人に分け与える新たな土地を確保できなかった。
2. 元軍に勝利したことで宋との貿易が途絶え、物資が不足して急激なインフレーションが起きた。
3. 幕府が御家人よりも足輕を優遇する軍制改革を行ったため、伝統的な武士の特権が失われた。
4. 元軍との戦いにおいて、幕府が御家人に領地の半分を返還させる「徳政令」を強制的に出した。

問4 鎌倉時代に栄西が伝えた臨済宗が、当時の社会や文化に与えた影響についての説明として、最も適切なものはどれですか。（2021年 大分県公立入試 類似）

1. 幕府の保護を受けて発展し、のちの茶の湯などの日本文化の形成にも大きな影響を与えた。
2. ひたすら座禅を組む「只管打坐」を重視し、主に地方の武士や農民の間に広まった。
3. 山の中で厳しい修行を行うことを重視し、平安時代の貴族の信仰を集めた。
4. 念仏を唱えれば救われると説き、戦乱で苦しむ民衆の間に急速に浸透した。

問5 禅宗は、念仏や祈祷よりも「自分自身を見つめ、精神を鍛える」ことを重視しました。この宗教が当時の武士に広く受け入れられた理由として、最も適切な説明はどれですか。（2026年 福島公立入試 類似）

1. 念仏を唱えるだけで救われるという簡潔な教えが、多忙な武士の生活に適していたから。
2. 厳しい修行を通じて自己の精神を律する姿勢が、生死をかけて戦う武士の気風に合っていたから。
3. 現世での利益や病氣平癒を祈る呪術的な側面が、戦場での加護を求める武士に好まれたから。
4. 華やかな建築や美術を重視する教えが、新興勢力である武士の権威を高めるのに有効だったから。

問6 1221年に後鳥羽上皇が鎌倉幕府を倒そうとして兵を挙げ、幕府軍に敗れた出来事について、この乱のあとに幕府が朝廷を監視し京都の警備を行うために設置した役職と、乱の名称の組み合わせとして正しいものを選びなさい。（2025年 愛媛公立入試 類似）

1. 承久の乱 — 六波羅探題
2. 承久の乱 — 問注所
3. 平治の乱 — 六波羅探題
4. 平治の乱 — 評定衆

問7 1185年、源頼朝は対立した弟の源義経を捕らえることを名目に、朝廷から守護と地頭を設置する権限を認めさせました。これら守護と地頭が配置された場所と役割の説明として、最も適切なものはどれですか。（2024年 山形公立入試 類似）

1. 守護は国ごとに置かれて軍事・警察の役割を担い、地頭は荘園や公領ごとに置かれて年貢の徴収などを行った。
2. 守護は荘園ごとに置かれて裁判の役割を担い、地頭は国ごとに置かれて行政全般の管理を行った。
3. 守護は朝廷のあった京都に置かれて貴族を監視し、地頭は東国の有力な御家人の領地にのみ限定して置かれた。
4. 守護と地頭はともに九州沿岸に置かれ、外国からの侵略に備えるための軍事拠点としての役割を担った。

問8 上杉景勝が活躍した16世紀後半は、戦国時代から天下統一へと向かう激動の時期にあたります。歴史の大きな流れにおいて、この時期を含む「中世」という区分が終わり、江戸時代を中心とする次の区分へと移り変わる境界が意識されます。中世の次に来る、江戸時代を中心とした時代区分を選んでください。（2024年 山形公立入試 類似）

1. 近世
2. 近代
3. 現代
4. 原始

答え合わせ・解説

問1	答え 1 筋骨隆々とした肉体美や激しい動きを表現した、写実的で力強い金剛力士像	鎌倉時代の彫刻は、平安時代後期の優美な様式とは対照的に、写実的で力強い表現が主流となりました。運慶・快慶らの慶派が制作した金剛力士像は、浮き出た血管や筋肉の躍動感が克明に表現されており、武士が政治の実権を握った時代の活力を象徴しています。
問2	答え 1 頼朝と対立して平泉へ逃れた弟の源義経を、奥州藤原氏が保護したため。	源頼朝は、自分と対立した弟の源義経を奥州藤原氏が受け入れたことを口実に、奥州（現在の岩手県など）へ出兵しました。これにより、三代にわたって栄華を誇った奥州藤原氏は滅亡することとなりました。
問3	答え 1 防衛のための戦いであったため、幕府は恩賞として御家人に分け与える新たな土地を確保できなかった。	鎌倉幕府の主従関係は、将軍が領地を保証・支給する「御恩」と、御家人が軍役を果たす「奉公」で成り立っていました。しかし、元寇は外国からの侵略を阻止する防衛戦であり、勝利しても奪える敵地がなかったため、莫大な戦費を負担した御家人に十分な恩賞を出すことができませんでした。これが幕府への忠誠心を低下させ、倒幕への動きに繋がりました。
問4	答え 1 幕府の保護を受けて発展し、のちの茶の湯などの日本文化の形成にも大きな影響を与えた。	臨済宗は師徒の問答を重視するスタイルが武士の気風に合ったため、幕府の有力な支援を得て寺院が整備されました。栄西が持ち帰った茶の文化は、のちに禅の精神と結びつくことで、室町時代の東山文化における茶の湯の発展など、日本の伝統文化の重要な基盤となりました。
問5	答え 2 厳しい修行を通じて自己の精神を律する姿勢が、生死をかけて戦う武士の気風に合っていたから。	禅宗は座禅によって自らの力で悟りを開こうとする「自力」の教えです。このストイックな修行形態や自己を律する精神性が、武芸の鍛錬や戦場での死生観と結びつき、北条氏をはじめとする多くの武士から支持されました。これが後の武士道精神の形成にも影響を与えています。
問6	答え 1 承久の乱 — 六波羅探題	源実朝の暗殺により源氏の将軍が途絶えた好機を狙い、後鳥羽上皇が倒幕の兵を挙げたのが承久の乱です。勝利した幕府は、二度と朝廷が反乱を起こさないよう監視を強化するため、京都に六波羅探題を設置しました。平治の乱は平安時代末期の出来事であり、問注所は訴訟を扱う機関です。
問7	答え 1 守護は国ごとに置かれて軍事・警察の役割を担い、地頭は荘園や公領ごとに置かれて年貢の徴収などを行った。	源頼朝は、平氏打倒の功労者でありながら対立することとなった弟の源義経を捜索・逮捕することを口実として、朝廷に守護・地頭の設置を認めさせました。守護は諸国（国単位）に一人ずつ置かれ、国内の武士の統制や軍事・警察の権利を行使しました。地頭は全国の荘園や公領（国衙領）ごとに置かれ、土地の管理や年貢の徴収、警察の補助を担いました。これにより幕府の支配力が全国へ及ぶ基礎が築かれました。
問8	答え 1 近世	日本の歴史学では、織豊政権（安土桃山時代）から江戸時代までを「近世」として区分することが一般的です。16世紀末から17世紀初頭にかけて、中世的な割拠状態から統一的な国家体制へと社会構造が大きく変化したことを重視し、中世から近世への移行期として捉えられます。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 御恩	鎌倉幕府の基盤は、将軍と御家人の間の土地を通じた契約関係にありました。将軍が御家人の領地を保証する「本領安堵（ほんりょうあんど）」や、戦功に対して新しい領地を与える「新恩給与（しんおんきゅうよ）」をまとめて「御恩」と呼びます。これに対し、御家人が軍役や京都・鎌倉の警備を行う義務を「奉公」と言い、この双方向の関係が幕府を支えました。
問2	答え 1 臨済宗	栄西が宋から伝えたのは臨済宗です。鎌倉時代には日宋貿易を通じて新しい仏教が日本に流入しましたが、臨済宗は特に幕府との結びつきを強め、後の五山文化の発展にも寄与しました。浄土宗は法然、浄土真宗は親鸞、時宗は一遍が開いた宗派であり、これらは念仏を唱えることで救われるとする教えで、禅宗とは特徴が異なります。
問3	答え 1 将軍が武士の領地支配を保障する代わりに、武士は幕府に対して軍役や番役などの義務を負った。	鎌倉幕府の武家政治は、将軍と御家人の間の「御恩」と「奉公」という主従関係によって成り立っていました。将軍が武士の土地所有権を認める「本領安堵」などの恩恵を与えることで、武士たちは幕府のために戦うという強い結束力が生まれ、武士による安定した統治が可能となりました。
問4	答え 1 一遍	一遍は、鎌倉新仏教の一つである時宗の開祖です。彼は特定の寺院にとどまらず、日本各地を歩き回って念仏を勧める「遊行（ゆぎょう）」を行い、踊りながら念仏を唱える「踊り念仏」を通じて、文字の読めない庶民層にも分かりやすい形で信仰を広めました。
問5	答え 1 同じ土地において、1年のうちに米とそれ以外の作物を組み合わせて2回栽培すること。	二毛作は、灌漑（かんがい）技術の向上によって土地の水分調節が可能になったことで広まりました。鎌倉時代には、主に夏の米の裏作として、冬に麦などが作られました。これによって土地を効率的に利用できるようになり、食料生産が大幅に増加しました。1年に2回同じ作物を育てることは「二期作」と呼び、二毛作とは区別されます。
問6	答え 1 源氏の将軍が途絶えた後の幕府の混乱を見て、後鳥羽上皇が政治の実権を取り戻そうと挙兵した。	鎌倉幕府の3代将軍・源実朝が暗殺され、源氏の正統が途絶えたことで幕府の結束が弱まったと判断した後鳥羽上皇は、倒幕の宣旨を下しました。しかし、北条政子が「頼朝の恩義」を御家人たちに訴えたことで幕府側が団結し、上皇側は敗北して隠岐に流される結果となりました。
問7	答え 1 執権	源頼朝の死後、幕府の実権は頼朝の妻である北条政子の実家、北条氏へと移りました。北条氏は「執権」という役職に就き、形式的な将軍を支えながら、事実上の幕府の最高責任者として政治を動かしました。管領は室町幕府で将軍を補佐する職名であり、連署は執権の補佐役、六波羅探題は朝廷の監視などを行う地方官職です。
問8	答え 1 幕府を支持する御家人が東日本に限定されていた状況から、乱の勝利によって没収した領地に地頭を任命することで、幕府の支配力が西日本を含む全国へ広がった。	承久の乱の前まで、幕府の勢力は主に東日本を中心としていましたが、乱の結果として上皇側から没収した3000力以上の所領に新補地頭を任命したことで、その支配力は西日本まで一気に拡大しました。この西国支配の拠点として機能したのが六波羅探題です。
問9	答え 1 元寇での軍役負担により生活が苦しくなった御家人のため、売却・質入れした土地を無償で取り戻させた。	元寇は外国からの侵略を退ける防衛戦であったため、幕府は新たに獲得した土地を御家人に恩賞として分配することができませんでした。多額の軍費を自ら負担した御家人たちは借金を抱え、土地を質入れしたり売却したりして生活をしのいでいたため、幕府はそれらの土地を返還させることで御家人の基盤を維持しようとした。

中学歴史プリント（過去問類似）

鎌倉時代

名前

得点

/9

問1 1221年に起こった承久の乱ののち、鎌倉幕府が朝廷の動きを監視し、京都の警備や西国の御家人の統制を行うために京都に設置した機関の名称として正しいものを選びなさい。この機関は、幕府の組織図において、中央の侍所や政所、問注所といった実務機関とは別に、京都に置かれた出先機関として位置づけられています。 (2021年 秋田県公立入試 類似)

1. 六波羅探題 2. 大宰府 3. 鎌倉府 4. 鎮西探題

問2 源氏の系図において、源頼朝の子である源実朝が暗殺されたことで幕府が動揺した際、後鳥羽上皇は幕府を倒そうとして兵を挙げました。1221年に起きたこの承久の乱の後、勝利した鎌倉幕府が朝廷の動きを監視し、西国の武士を統制するために京都に設置した役職は何ですか。 (2020年 千葉県公立入試 類似)

1. 六波羅探題 2. 鎌倉府 3. 鎮西探題 4. 守護

問3 11世紀末から約200年にわたって断続的に行われた十字軍の遠征が、中世ヨーロッパの社会や文化に与えた影響や背景についての説明として正しいものはどれですか。 (2021年 徳島公立入試 類似)

1. 遠征を通じてイスラム世界の高度な学問や技術が伝わり、のちのルネサンスへとつながる文化交流のきっかけとなった。
2. 遠征が軍事的に完全な成功を収めたことで、ローマ教皇の権威はそれ以降さらに強固なものとなった。
3. イスラム勢力の中心地であるメディナを占領し、キリスト教の領土を西アジア全域に広げること成功した。
4. 遠征によって地中海貿易が衰退したため、ヨーロッパ諸国の国王は新しい航路を求めて大航海時代を開始した。

問4 鎌倉時代に関する歴史年表において、幕府が鎌倉と京都を結ぶ道路を整備した記述が見られます。その後、13世紀後半になると、鎌倉幕府が迅速な通信連絡を確保するために、この「駅制（えきせい）」を九州地方まで延長する要因となった出来事はどれですか。 (2024年 広島公立入試 類似)

1. 元軍による襲来 2. 応仁の乱の勃発 3. 奥州藤原氏の征服 4. 保元の乱の発生

問5 鎌倉時代に中国から伝えられた仏教の一派で、座禅によって自らの力で悟りを開こうとする教えを何といいますか。この宗派は、修行による精神修養を重んじる性質から武士に好まれ、幕府の厚い保護を受けて中世の武家文化に大きな影響を与えました。 (2022年 神奈川県公立入試 類似)

1. 禅宗 2. 浄土宗 3. 浄土真宗 4. 法華宗

問6 北条時宗が第8代執権を務めていた時代、モンゴル帝国（元）の日本侵攻に対する幕府の対応やその背景について述べた文として、最も適切なものはどれか。 (2016年 秋田県公立入試 類似)

1. 執権として九州の御家人を動員し、異国警固番役を組織して海岸線の防衛を強化した
2. 執権として六波羅探題を新たに設置し、朝廷の監視とあわせて西国の防衛にあたらせた
3. 執権として御成敗式目を制定し、モンゴル帝国との戦いにおける武士の恩賞の基準を明確にした
4. 執権として日宋貿易を積極的に推進することで、モンゴル帝国を経済的に圧迫する政策をとった

問7 13世紀、チンギス・ハンの孫であるフビライ・ハンが、モンゴル帝国の本拠地を中国に移して定めた国号を選びなさい。 (2017年 静岡公立入試 類似)

1. 元 2. 明 3. 清 4. 唐

問8 鎌倉幕府が滅亡に至るまでの背景と経緯について述べた文として、最も適切なものを選びなさい。 (2022年 千葉県公立入試 類似)

1. 元軍の襲来（元寇）の際に十分な恩賞を与えられなかったことで御家人が困窮し、幕府への不満を強めた後醍醐天皇や足利尊氏らによって倒された。
2. 承久の乱において朝廷軍が勝利し、その勢いに乗った新田義貞や足利尊氏が鎌倉の北条氏を滅ぼした。
3. 北条時頼が建長寺を建立して禅宗を広めたことにより、仏教勢力との対立が激化し、足利尊氏が天皇の命令を受けて幕府を滅ぼした。
4. 足利義満が日明貿易を独占したことに反発した有力な御家人たちが、後醍醐天皇を担ぎ出して1333年に鎌倉幕府を滅ぼした。

問9 「祇園精舎の鐘の声」という書き出しで始まり、平氏の繁栄と没落を描いた鎌倉時代の軍記物語はどれか。 (2016年 北海道公立入試 類似)

1. 平家物語 2. 源氏物語 3. 枕草子 4. 太平記

答え合わせ・解説

問1	答え 1 六波羅探題	承久の乱で後鳥羽上皇を中心とする朝廷軍を破った鎌倉幕府が、二度と朝廷が幕府に反旗を翻さないよう監視を強化するために設けたポストです。これにより、それまで朝廷の勢力が強かった西日本に対しても、幕府の支配力が強く及ぶようになりました。
問2	答え 1 六波羅探題	源実朝の死により源氏の正統が途絶えた好機を捉え、後鳥羽上皇は倒幕の兵を挙げました。しかし、北条政子の呼びかけにより結束した御家人の軍に敗北しました。幕府は戦後、再発防止のために京都の六波羅に拠点を置き、朝廷を常時監視するとともに、西国の行政や裁判を担う六波羅探題を設置しました。これにより幕府の支配力は西日本にも強く及ぶようになりました。
問3	答え 1 遠征を通じてイスラム世界の高度な学問や技術が伝わり、のちのルネサンスへとつながる文化交流のきっかけとなった。	十字軍は回を重ねるごとに領土欲や商業的利益といった世俗的な目的が強まり、最終的には軍事的な失敗に終わりました。しかし、長期間にわたる遠征は東西の交流を活かし、イスラム世界に保存されていた古代ギリシャの知識や優れた科学技術がヨーロッパに流入しました。これがのちの文化運動であるルネサンスの一因となりました。また、遠征の失敗は教皇の権威を失墜させることにもなりました。
問4	答え 1 元軍による襲来	鎌倉幕府は当初、幕府の所在地である鎌倉と、朝廷のある京都との連絡を最重視していました。しかし、13世紀後半にモンゴル帝国（元）が九州北部に侵攻してくると、現地の戦況をいち早く把握し、御家人への指令を迅速に伝える必要が生じました。この国防上の要請から、通信網である「駅制」が九州まで拡張・整備されました。
問5	答え 1 禅宗	鎌倉時代に栄えた新しい仏教のうち、座禅を通じて自己を見つめ直し、自力で悟りに達しようとする教えが禅宗です。この「自力」による厳しい修行のあり方が、実力を重んじ精神的な強さを求める武士の気風に合致しました。鎌倉幕府だけでなく室町幕府も禅宗を厚く保護し、寺院の序列を定めるなどして政治・文化の両面で深く結びつきました。
問6	答え 1 執権として九州の御家人を動員し、異国警固番役を組織して海岸線の防衛を強化した	フビライ・ハン率いるモンゴル帝国（元）の脅威に対し、北条時宗は執権として強力なリーダーシップを発揮しました。御家人に対して九州沿岸の警備を義務付ける「異国警固番役」を課し、さらに博多湾沿岸に「石築地（防塁）」を築かせるなど、軍事的な防衛体制を整えることで元寇に立ち向かいました。
問7	答え 1 元	モンゴル帝国は13世紀にユーラシア大陸の広大な範囲を支配しました。第5代皇帝のフビライ・ハンは、都を現在の大都（北京）に移し、中国式の国号である「元」を採用しました。この時期の日本では鎌倉幕府が続いており、北条時宗が執権として政治を行っていました。
問8	答え 1 元軍の襲来（元寇）の際に十分な恩賞を与えられなかったことで御家人が困窮し、幕府への不満を強めた後醍醐天皇や足利尊氏らによって倒された。	鎌倉幕府は元寇後の恩賞問題などで御家人の支持を失い、政治的な混乱に陥っていました。この隙を突いて後醍醐天皇が倒幕を呼びかけ、これに呼応した足利尊氏や新田義貞などの有力な御家人の離反を招いたことが決定打となりました。建長寺を建立した北条時頼は5代執権であり、幕府の全盛期に近い時代の人物です。また、足利義満は室町幕府の全盛期を築いた将軍であり、時代設定が異なります。
問9	答え 1 平家物語	鎌倉文化を代表する作品であり、仏教の無常観を基調としている。琵琶法師の語りによって、文字を読めない人々にも広く知れ渡った。源氏物語と枕草子は平安時代の国風文化を代表する作品であり、太平記は南北朝時代の動乱を描いた軍記物語であるため、時代や内容が異なる。